

大田区団二世代時代を迎えて

—結成から音楽隊発足までの背影—

団創立者・現音楽隊長

佐藤 昌之

原稿を書いていると、
「創立60周年おめでとう、おめでとう」と、60年間の関係者の皆さんと大声で叫びたい。

私の人生は海洋少年団と共にあった。社会は敗戦の混乱を脱したものの、その不条理は深刻であった。私は小学校教員を退職し、大学に通学しながら、近所の人々の要望で、子供会と稱して学習塾を開催していた。塾生も増えてきた時、ある理由で一挙に海洋少年団に転換してしまった。

これが、先行き私の生きる原点となろうとは、想像さえしていなかった。

ひとりの若者の、人生を決定させたある理由とは、当時の糀谷地区は、一面の焼け野原の中に点在する米駐留軍の宿舎があり、その周辺には、子供達が、朝に夕に食べものを米兵に「たかる」為に、「たむろ」する姿が絶えない。無残な姿を壊滅させる為、一步一步着実に組織的な目的集団を作り規律ある生活を実行した。

幸いにして、地域は海岸線をかかえ、海を通じた訓練を目差し、大自然との生活を子供と共に勤しめた。当初10数名が百数十名にもなった。これが大田区団の出発であった。

敗戦直後に点在した子供グループは、各小学校3校の校外指導部子供会として組織化され、日常は分団別活動を行ない、夏休み等はPTAと共催の有料野外映画会を開催し、活動資金づくりをした。廃品回収も行なっていた。この制度は、昭和30年前半まで姿が消えた。

いよいよスカウト時代、海洋少年団(S.27年)・ボーイスカウト125隊(S.29年)・ガールスカウト10団(S.29年)、それぞれ結成されたが、現在は海洋少年団だけとなり60周年を迎えた。

私の念願でもあったブラスバンドは、創立30周年を記念して昭和57年10月27日に結成した。全国大会をはじめ各種出演を行なっている。

音楽隊結成は高額経費、会場、人材等準備をお伝え出来ないのは残念。別の機会にでも。

青少年団体は、指導者を自らの手で養成する。

これが容易ではなく長年を要し、現団長・安藤さんは第6期生で、OSF会長・三渡さんは第4期生、目下立派な指導者として活躍している。

尊い事である、二世代を迎えた。絶大なる拍手をおくる。

最後になりましたが、60年の長期間、ご支援いただいた皆様にご厚礼申し上げ、今後とも宜しく願い申し上げます。

継続は【絆のちから】

OSF 会会長

副団長 三渡祥晃

きょうは、訓練を休もうかなと考えていたら、「さあっ、一緒に行こう！」と誘ってくれたのは、1期先輩で3歳年上の榎本紘一さん（初代OB会長）でした。

入団して3年目、何か先輩や友人の団員は歯が欠けるように減り、100名近くいた仲間が両手で数えられる程になり、所属していた羽田隊は糍谷隊と合流し、顔見知りも少ない訓練には、行きづらい気持ちが芽生えた頃でもありました。

意を決して、糍谷中学校（当時・団本部）に行き、それまで接点が少なかった佐藤隊長（当時・現音楽隊長）と出会った事が、大げさに言えば私の人生を方向づけた、と言って過言ではないと思いますし、今でもその影響は色濃く感じられます。

独身20代半ばであられた隊長は、その体躯からは想像できない迫力で、団員一人ひとりに通常の訓練だけでなく、ユーモアを交え社会教育活動の大切さを説かれ、やゝもすると保守的に陥りがちな、「地域」や【おとな社会】に青少年の主張を活かす為には、地道な日常活動と謙虚で誠実な態度こそが、一番の説得力である事を教えて下さいました。

また、駆け出しの中学生であった小生を、団員募集の為に地域の小中学校等に同行し、或いは紹介状を持って単独訪問と、現在ではあり得ない体験をさせて戴き、様々な会合では常に最年少参加者でしたが、幾らか外向性になったのは、この頃からかも知れません。

（後日、私たちは隊長の教えを【佐藤イズム】と名づけました。）

更には、その頃に伝馬船や【べか】の漕ぎ方、機械船の操作法を伝授下さった石井五六先生（現・育英会副会長）も、海の恵みと厳しさを座学で教えられ、海と操船に興味を与えて戴いた大恩人で、ご両名と共にこの日を迎えられた喜びは、ひとしおであります。

その後、団活動を通じて栄えある機会にも恵まれ、初代小林団長・松原後援会長・佐藤志満様など、いずれも故人となられました多くの先人、並びに各界諸先輩の得難いご薫陶を受け、少年団と同時に青年団体活動もしましたが、中でも忘れ得ぬ事の一つには、学生時代に日本連盟の故・鬼沢清治事務局長、故・大野杉並団長の知己を得て、日連事務局に日参し、各種研修会の立案から交渉、更には実行まで一貫して参画した事で、都内を含む各団の方々を知り得たのも、骨身に浸み込んだ【佐藤イズム】の賜物と考えています。

海洋少年団員となって59年余、何と言っても私の人生で最高の宝物は、同じ釜の飯を食べ労苦を共にした、入団年次・経歴・職業・住居は様々ながら、陰になり日向となって子供達を支える為、第51回全国大会でも共に汗を流して戴いた、【OSF会】会員・会友の仲間であり、脈々と共に流れる熱い血潮であると、いつも誇りに思っています。

そろそろ古希を意識する小生を含め、還暦過ぎの会員が増えて参りますが、次に控える結団70周年に向け、益々【絆】を強めていく所存です。頑張り！海洋少年団&OSF。

目 次

ちかい・やくそく・団旗三代	1
結団60周年記念式 記録写真	2 ~ 9
結団50周年記念式 おもいで	10 ~ 15
あいさつ 安藤日出男 団長	16
吉澤 敬地 育英会長	17
石井 信 名誉団長	18
佐藤 昌之 音楽隊長	19
三渡 祥晃 O S F会長	20
目 次	21
日本連盟歌・団歌	22 ~ 23
団 則	24 ~ 25
祝 辞 日本連盟会長・大田区長・教育長	26 ~ 39
育英会会則	40 ~ 41
発刊に寄せて 育英会役員・父母会長	42 ~ 46
60周年記念式典の記録	47 ~ 56
ご来場の記録	57
結団から60年間の歩み	58 ~ 60
団の組織と役員	61 ~ 62
育英会賛助会員	63
団活動の記録	64 ~ 101
音楽隊の歩み	102 ~ 108
団員のページ	109 ~ 124
O S F会のページ	125 ~ 138
海はふるさと【旧・日本連盟歌】	139
編集後記	140

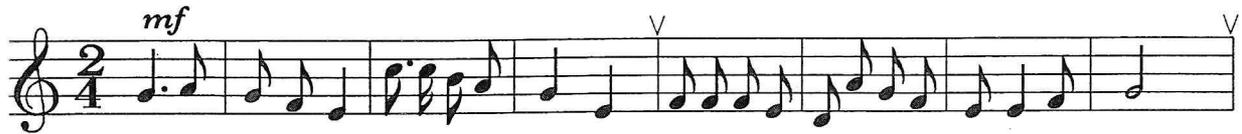
表紙題字 石井 信 名誉団長

日本海洋少年団連盟の歌

みどりの広場

清水みのり 作詞

渡辺 浦人 作曲



か た く み て ふ じ を あ お く お お そ ら は き ょ う も ま す み よ



な が れ く る し お の か お り に あ ふ れ く る わ か き



の ぞ み よ - い ぎ ゆ こ - う く ろ し



お - の か な た へ う み は - ほ く ら の み ど り の



ひ ろ - ば -

一、肩くみて 富士を仰ぐ

大空は 今日も真澄よ

流れくる 汐の香りに

溢れくる 若きのぞみよ

いざ行こう、黒汐のあなたへー

海はぼく等の みどりの広場

二、群れ遊ぶ かもめ連れて

コバルトの 海をいま行く

白波は 球たまとくだけで

波しぶき 虹ときそうよ

のぞみ見る 海原の広さよー

海はぼく等の みどりの広場

三、嵐呼ぶ 雨か風か

たちこめし 雲のけわしさ

逆まきの 波のうねりに

雄々しくも いどむ海の子

明けそめて 仄見える青空ー

海はぼく等の みどりの広場

四、朝やけの 海の行手

むらさきに けむる小島よ

寄りそいて 友と唄えば

手を振りて 招く島の子

あこがれの あゝ海なればこそー

海はぼく等の みどりの広場

♩=108位
元気に格調をもって

大田区海洋少年団団歌

作詞 石井 信春
飯田 泰春
作曲 堀籠 次男

mp

1. た ま の — な が れ が は く く み し
2. だ ま の — な は が れ の し い を く か か し
3. お し え と — ゆ う じ ょ う い や ふ か か し

f

ふ じ を — の そ — む お — た く に
い じ ま を — の う そ つ め お — た た く の
ほ く と — わ た し の お た く は

つ ど う れ き し も か さ な き て か い じ つ と お くり
め ざ お す と く こ が しろ は に か は さ る な き な て り か だ い じ つ と お くり
し お す じ と く こ が しろ は に か は さ る な き な て り か だ い じ つ と お くり

f

な が め や り し し そ う し ょ う — — の ち も あ つ
ひ が め や り し し そ う し ょ う — — の ち も あ つ
ま も め や り し し そ う し ょ う — — の ち も あ つ

f

く わ れ ら の ゆ め は あ ま か け — — る
よ と わ わ か ら の ゆ め は あ ま か け — — る
め と わ わ か ら の ゆ め は あ ま か け — — る

結団30周年記念制定 (S 59・4・22)

大田区海洋少年団団歌

作詞 石井 信春
飯田 泰春
作曲 堀籠 次男

一、多摩の流（なが）れが育（はぐ）みし
富士（ふじ）を望（のぞ）む 大田区（おおた）に
集（つど）う 歴史（れき）も 重（かさ）ね 来（き）て
海（うみ）日（ひ）遠（とほ）く 眺（なが）め やり
師（し）資（し）相（さ）承（しょう）の 血（ち）潮（しほ）も 熱（あつ）く
我（われ）等（ら）の 夢（ゆめ）は 天（あま）駆（か）ける

二、団（だん）の 創（はじめ）世（よ）の 志（し）を 活（い）か し
今（いま）に 受（う）け 継（つ）ぐ 大田区（おおた）の
目（め）指（さ）す 処（ところ）は 遥（はるか）か なり
世（よ）代（だい）は 移（うつ）り 人（ひと）変（か）わり
さ（さ）れ ど 乱（みだ）れ ぬ 団（だん）結（むす）よ
永（とこ）遠（とほ）に 輝（かが）め け この 胸（むね）に

三、教（おし）え と 友（ゆう）情（じょう） い や 深（ふか）く
ぼ（ぼ）く と わ た し の 大田区（おおた）は
潮（しほ）路（ろ）、陸（りく）路（ろ）に 技（わざ）を 練（ね）り
誓（ちか）い と 掟（おきて）守（まも）り つつ
我（われ）等（ら）が 行（な）方（かた） 舵（かじ）定（さだ）め
若（わか）き 真（まこと）の 道（みち）行（な）かん

大田区海洋少年団 団 則

第1章 総 則

- 第 1 条 この団は、大田区海洋少年団という。
- 第 2 条 この団は、少年少女に対して、海洋に対する科学知識と、海上生活に必要な技術を指導し、団体生活を通じて社会的徳性をみがき、気宇広大にして明朗闊達・積極進取の気性に富み、国際的な視野と感情を身につけた海洋国民を育成することを目的とする。
- 第 3 条 この団の事務所は、大田区羽田 2-25-11 石井 信宅におく。
- 第 4 条 この団は、第 2 条の目的を達成するために次の事業を行なう。
- (1) 月例訓練と見学、奉仕活動
 - (2) 各種大会参加
 - (3) 各団体との交流
 - (4) 団報「白帆」の発行
 - (5) その他必要な事業

第2章 組 織 と 入 退 団

- 第 5 条 この団は、6 歳以上 18 歳までの少年少女の自発的組織で、その指導育成にあたる成人をも含めて組織する。
- 2)この団は、全国的な組織である、社団法人日本海洋少年団連盟に加入し、その事業・活動への参加・協力、並びに指導助言を受けるものとする。
- 第 6 条 この団に入団したい者は団長に申し出て、運営委員会の承認を得て団長が入団を許可する。
- 第 7 条 この団に入団したい者は、心身強健で所定の義務を遂行しうる者でなくてはならない。
- 第 8 条 この団を脱退したい者は、3ヶ月前に団長に申し出なければならない。
- 次の場合には、団長は運営委員会の議を経て退団させることが出来る。
- (1) この団の目的に違反した場合
 - (2) 各種事業に無断で参加せず、団員の名誉を傷つけるような行為のあった時
 - (3) 6ヶ月にわたり団費を滞納した場合

第3章 役員と総会

- 第9条 この団に次の役員をおく。
団長1名 副団長3名 事務局長1名 会計1名
運営委員若干名
- 第10条 団長・副団長・事務局長は総会で選任する。
会計は団長が委嘱し、育英会選出の会計と共に業務を執行する。
運営委員は、指導者・団員・団員の父母の互選による。
- 第11条 役員任期は2年とする。但し、重任及び再任を妨げない。
- 第12条 団長は団を代表し、団務を統轄する。副団長は団長を補佐し、団長事故ある時はその職務を代行する。事務局長は事務を統括する。運営委員は団務と事業を審議し、執行する。
- 第13条 運営委員会は必要に応じて開催し、その決定は出席者の過半数の同意によるが、賛否同数の場合は団長がこれを決する。
- 第14条 定時総会は、育英会総会と同時に開催する事とし、育英会員及び全団員の父母・団役員等で構成し、年1回11月に開催する。
議長は育英会会長が就任し、議決は出席者の過半数の同意で成立する。
- 第15条 この団に、名誉団長・顧問を置くことが出来る。運営委員会の議を経て団長が委嘱する。
- 第16条 この団に、後援団体・父母会をおく。これらの規定は別に定める。

第4章 会計

- 第17条 この団の経費は、団費・後援費・寄付金等を以ってまかなう。団費は月額制とし、その額は別途定める。
- 第18条 この団の事業、及び会計の年度は、10月1日に始まり翌年9月30日を以って終了とする。
- 第19条 事業計画及び事業報告、予算及び決算に関しては、団・育英会定時総会の承認を受けるものとする。

第5章 附則

- 第20条 この規程は、平成15年12月1日より改正これを施行する。

祝 辞

公益社団法人
日本海洋少年団連盟
会 長 草刈 隆郎

大田区海洋少年団が結成60周年を迎えますことを心よりお慶び申し上げます。

我が国は、四方を海に囲まれた海洋国であり、海から多くの恩恵を受け、今日の繁栄を築き上げることができました。

海洋少年団は、この海を道場として、「海に親しみ、海に学び、海に鍛える」をモットーに、様々な活動を、日本の次代の担い手である健全な少年少女の育成に努め、関係者の間で高い評価をいただいています。

このような中で、大田区海洋少年団は、連盟草創期の昭和27年に結成されて以来、60年の長きにわたり、団長をはじめ指導者等の熱心なご指導と団員の真摯な活躍により、各地で開催される全国大会や地区大会に積極的に参加されるなど、輝かしい実績を残されるとともに、今年度、日本連盟が主催・主管して東京都で開催した第51回全国大会を協力団として成功させるなど、貴団の活動は、他の海洋少年団の模範とするところであります。

特に、昭和60年に貴海洋少年団に移行された日本連盟音楽隊は、全国大会や各種行事において演奏を行い、海洋少年団運動についての広報の役割を果たしていただくなど、日本連盟の活動に多大な貢献をされております。

また、地域社会への奉仕活動や地域の各種行事にも積極的に参加されるなど、多岐にわたる活動を展開し、今日まで数多くの有為な青少年を社会に送り出され、地元関係者の期待に応えてこられましたことは、日本海洋少年団連盟の誇りとするところでございます。

これは、60年の団活動の歴史の中で、常に先頭に立って指導されてこられた歴代k団長をはじめとして、指導者の皆様の並々ならぬご努力と地元関係者の多大なご支援によるものと、深く敬意を表するとともに感謝申し上げます。

昨今、青少年を取り巻く社会環境には大変厳しい面がありますが、近年青少年教育団体に対する期待が一層高まっております。

結成60周年を迎えた大田区海洋少年団におかれましては、これを契機と致しまして、未来に羽ばたく青少年の健全育成のために更なるご活躍と団の益々のご発展をご祈念申し上げます、お祝いの挨拶といたします。

ご挨拶

大田区長 松原 忠義

大田区海洋少年団が創立 60 周年を迎えられましたことを心よりお祝い申し上げます。

昭和 27 年に設立されてから、海を教育訓練の場として「海に親しみ、海に学び、海に鍛える」を合言葉に、次代の日本を担って立つ青少年の健全育成に、たゆまぬ努力を続けてこられた関係者の皆様の、並々ならぬ熱意と努力に心から敬意を表します。

さて、昨今の子どもたちを取り巻く社会環境は、目まぐるしく変化しており、決して良好な環境とは言えません。携帯電話やインターネットの急速な普及、都市化、核家族化は、青少年を取り巻く環境を大きく変化させています。人と人が会話を通して関係をつくり、学び合うという機会が減少したことにより、青少年のコミュニケーション能力や規範意識の低下が懸念されています。

また、先行きに不透明感がある中で、雇用の不安定化、経済格差の拡大など、青少年が大人になることに不安を抱くような厳しい状況が続いており、青少年の社会的自立の遅れなどの新たな問題が顕在化してきています。

身近な地域における異年齢・異世代との交流や様々な体験活動は、学校や家庭以外の人間関係をつくり、コミュニケーション能力を育むとともに、社会のルールやマナーを体得する上で欠かせないものです。

海洋少年団のトレーニングの中にカッターがありますが、これは全員が力を合せて漕いだり、風や波を利用して帆走する訓練と聞いております。船長の指揮に従って、全員で力を合せて漕ぐと、カッターは洋上をすべるように進んでいきます。ところが、一人でも歩調が合わないと容易に進みません。つまり、一条乱れぬチームワークが要求されるのです。疲れたからといって、自分が手を休めれば全体に迷惑がかかります。期には多少のつらさを乗り越える力も必要となります。そのつらさを全員で乗り越えることによって、充実感や団結進も高まるのでしょうか。そして、一人の人間としての自覚も養われていくのでしょうか。

海洋少年団の皆様には、子どもたちが団体生活を通して社会生活に必要な道徳心を養い、大海原のような広く大きな夢を持った、心身ともにたくましい人となるよう、青少年健全育成の取り組みを引き続きお願い申し上げます。

最後に、大田区海洋少年団の更なるご発展と会員の皆様のご活躍を祈念し、お祝いの言葉とさせていただきます。

大田区海洋少年団創立60周年へのメッセージ

大田区教育長
清水 繁

大田区海洋少年団は、(社)日本海洋少年団連盟が創設された翌年、昭和27年(1962年)7月20日海の記念日(当時)に結成されました。

以来60年の永きにわたり活動を継続されてきたことは、これまでの関係者の皆様の並々な熱意と努力があったことと、心から敬意を表します。

また、大田区海洋少年団の皆様には、こどもガーデンパーティー並びに子ども交歓会の実施に当たりましては、大田区少年少女団体協議会の一員として、長年にわたりご尽力をいただいておりますことに感謝申し上げます。

さて、大田区海洋少年団におかれましては、子どもたちが海に親しむとともに、団体生活を通して社会生活に必要な道徳心を養い、広く大きな夢と限りなく透明な心を持って、たくましく成長して巣立って行くようにと、子どもたちを応援しております。

将来を担う青少年が、心身ともに健やかで、豊かな社会性と創造力を身につけ、自ら考え責任ある行動ができる人間として成長していくことは、区民をはじめすべての人の願いであります。

しかし、子どもや若者の問題行動や事件は後を絶たず、若者の自立の遅れが課題として指摘されております。

大田区教育委員会は、子どもたち一人ひとりが将来の目標や夢を持ち、それに向けて努力し、人生を切り拓いていく「意欲」を育てていくことが大切だと考えます。

子どもたちが元気で伸び伸びと成長できるように、平成21年6月に「おおた教育振興プラン」を、平成23年4月には第五次となる「青少年健全育成のための大田区行動計画」を策定しました。

この計画に基づき、区民の皆様、地域の団体の皆様と連携して成長過程にある青少年を地域全体で見守り、困難な状況を乗り越えていく青少年の「生きる力」を育て参ります。

この「生きる力」の育成について、大田区海洋少年団がこれまで大いに貢献いただいていたことは言うまでもありません。

「海のような広い心で団結し、すべての人を友とします。体をきたえ心をやしない、りっぱな海の子になります。」という誓のもとに、偉大な海に親しみ、海に学び、海を通して、少年少女の健全な育成と人格形成を目指しておられる、大田区海洋少年団の今後のご活躍とご発展を心からご祈念申し上げます、お祝いの言葉とさせていただきます。

注) この寄稿文は、平成25年10月に戴いたもので、現在の教育長は「津村正純氏」です。